



TITLE:

質疑欄

AUTHOR(S):

CITATION:

質疑欄. 天界 1920, 1(2): 30-30

ISSUE DATE:

1920-11-29

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/159523>

RIGHT:

質疑欄

(四)陰曆は今でも襲用せる土地あるが、實際何か陽曆に勝る特長ありや(F生)

【答】多くの天文書には、たゞ陰曆(太陰陽曆)の缺點ばかり指摘して居るから、こゝでは御質問に従つて特長をあげて見やう。

普通の陰曆は陰陽混合曆であるが勿論太陽曆ほどにうまくは季節に合はないが、此曆の日附と月の盈虚の次第とが殆ど合ふて居るのが昔の人には便利であつたのかも知れない。今、此太陰陽曆を一面から見るとこれは最も天文學的の曆法である。其一年の長さが大小あるのは缺點だが其一月の平均は朔望月に等しく一月は大體朔に關連して始終して居る。此曆法の特長は「凡ての始りが大體に於て、天文學的定義を有して居る」にある。他の現行曆法の中には始が任意的のものがある。故に考へ方によつてはこれは科學的の曆法である。但、人生に便、不便は別問題である。又現今襲用して居るのは何かの特長を認めて使つて居るのではなく單に舊來の習慣でせう。(K)

(五)恒星の距離を計るには地球太陽間の距離を基線とす。然るに測定中に太陽は一秒二〇杆の速度にて移動す。それは測量上障害とばならずや。(RS生)

【答】我太陽系全體の重心は、外界の影響が無くして相互引力のみが働いて居る時は、空間に於て直線等速運動をすることは、ニュートン力學の運動方程式の積分によつて知られて居ます。(重心の靜止は、等速度が零なる場合)。太陽のみの運動でなくて皆がヘルクス星座へ向つて毎秒二十キロメートルの速さで直進して居るのですから重心が靜止して居るのとは内部の關係は別に變つたこともなくて、地球と太陽と唯二つだけ考ふれば地球は太陽を焦點とした橢圓軌道を畫くことになります(畫きつゝ共にヘルクス星座へ進行)。従つて地球と太陽との平均距離は影響なしとして差支ありません。太陽系全體の進行が何か尙一層大きな太陽(Centauri Star)の支配のためと考へるご自分等自らの直線等速運動の考へは又別のことになります。しかしそれ等は長い年月經過せなければ、とても違ひが分らないでせう。測定上差支へになりません。(K)

一戸直藏博士逝く

噫天文學者一戸博士逝く。博士は明治十一年本州の北端青森縣に生れ小學中學時代幾多の辛酸を嘗め、二高を経て明治三十六年東大天文學科を卒業後、天文臺の助手となり、三十八年私費を以て世界第一の屈折望遠鏡を有する米國エルケス(Erkus, Yerkes)天文臺に留學する事二年、有名な Barnard 氏の知遇を受け、歸朝後東大講師に任ぜられ四十四年博士號を受けられた。博士論文は重に變光星の研究で、又在職中新高山の探險、日本天文學會創立等に盡力せられ、同年故を以つて天文臺を去り、雜誌「現代之科學」を經營して今日に至つた。

博士一生の希望は日本に於て私立の完備した天文臺を建設し大に從來萎靡振はなかつた本邦の斯學界を振興せしめるにあつた。然るに不幸二疊の犯す所となり、四十三歳を一期として遽焉逝く、寔に本邦天文學界の一大損失である。博士研究の餘暇著譯の業に従はれ高等天文學以下好著頗る多く讀書界に裨益を與へる事莫大であつたが今や筆執つて親しく後進を誘掖する此の指導者亡し。悼ましい哉。(古川)